



千寿常東小だより2月号 第10号

平成24年2月1日(水)発行

足立区立千寿常東小学校長 山田 誠

体験を通して学ぶことを大切に

千寿常東小学校長 山田 誠

例年になく大変寒い毎日が続いております。本年度の登校日も残すところ40日ほどになりました。6年生は卒業に向けて、最高学年としてどのような姿で卒業していけばよいか考えながら学校生活を送っています。また、1年生から5年生は、進級する学年に相応しい子供になれるよう努力しながら学校生活を送っています。新3年生と新5年生は学級編成替えもいたします。いずれの学年においても、本年度の学習をまとめ、次年度に向けた心構えをもつことができるよう指導しています。ご家庭や地域でも励ましていただければありがたいと考えております。



千寿常東小学校では、「足立こども元気基金」や「総合的な学習予算」を活用しながら、体験学習の充実に努めています。体験学習では、子供たちが、友達、保護者や地域の皆様、自然環境に直接かわり、大変意欲的に学習を進めていきます。

体験学習のよいところは、体を通して学ぶことによって子供たちの感性を育てるとともに、子供たちの生きて働く知識を増やし、学習の基盤をつくっていくことができることです。また、生きて働く知識を多くもっていると、それらが互いに関連し合ったりつながったりして、子供一人一人の知識の網の目が密になっていきます。その結果、さらに多くの生きて働く知識が網の目にかかり、知恵となって働くようになってきます。また、体験学習の過程で多くの人々とかかわり、その生き方を学べることも体験学習の大きなよさです。



その半面、体験学習には多くの課題もあります。第一に実施には多くの学習時間がかかります。また、大勢の方々のご協力なしにはできません。事前の様々な準備も必要です。さらに、体験学習で学んだことは一人一人の子供の興味・関心やそれまでの体験の積み重ねなどにより多様であり、一言で述べることはできません。教科書や黒板で学ぶことと比べて、一律の整理された知識としてまとめるににくい学習です。

千寿常東小学校では、以上のような体験学習の利点と問題点をとらえながら、体験的な学習のよさが発揮できるよう工夫しながら教育活動を進めています。以下に体験学習を3つご紹介します。



【写真：上】5年生・なかよし学級の「NHK放送体験クラブ」で番組収録の体験学習です。社会科の教科書で情報産業や情報化社会について学ぶだけでなく、現場での体験を通してその重要性について具体的に学ぶことができました。

【写真：中】4年生の「伝統的工芸作品教育事業：東京銀細工、銀指輪製作」の体験学習です。地域の特徴を学ぶ学習では、資料に頼りがちです。実際に体験することによって、東京銀細工の伝統を守っておられる方々とかかわり、その熱意に触れることができたことは貴重な体験でした。

【写真：下】3年生の「昔の道具を使う」体験学習です。保護者と地域の皆様合わせて30名が来校してくださいました。炭をおこし、七輪でお餅やスルメイカなどを焼いて食べ、昔の道具を使う大変さとよさを学ぶことができました。

常東小学校の活動を支える様々なお部屋から…

図工室より

図工専科 黒澤 佐知子

12月の展覧会も無事に終わり、技術面や心の面でも大きな成長が見られるようになりました。早くも3年生は3年後の展覧会に向けて、熱を入れて作品作りに励んでいます。展覧会で観た上級生たちの作品に感化され、「あんな作品を作ってみたい!」「こんな素敵な絵を描いてみたい!」と感じたようです。

さて、学年末に近づいた図工室からは、保護者の皆様に道具の整理をお願いしたいと思います。一生懸命作品制作に取り組んだこの一年間で、色々な道具が消耗しています。筆先が割れてしまった絵筆、無くなってしまった絵の具やクレヨン、のりやボンドの補充、さび付いた彫刻刀等のメンテナンス等を来年度に向けて少しずつ進めていきたいと思います。また、この作業は習慣をつける良い機会になると考えます。是非、自分の持ち物を大切に使うことを、すべての家庭で取り組んでいただきたいと思います。



音楽室より

音楽専科 平澤 勇二

早いもので、今年度も残りあと2ヶ月です。各学年、4月から比較するととても成長を感じております。

とりわけ、どの学年も合奏への取り組みが意欲的で、様々な楽器を一生懸命に練習していました。特に5年生の合奏を集会で聴いてからは、5年生の演奏を目標にする児童も多く見受けられました。

「こうなりたい」「こういう音楽をしたい」「この音きれいな」といった気持ちは、意欲を生み、心を育むものだと考えます。是非ご家庭において、たくさんの音楽を流したり歌を歌ったりして、日常的に多く音楽に触れる環境を作っていただけると幸いです。



給食室より

栄養士 小川 由美子

「今日の給食美味しかった」、「作り方教えて」という子ども達の声が、調理員さんの仕事が一番報われるときです。料理は生きているといわれますが、同じ献立でもその日の天候や、季節によって味が違い、毎日気が抜けない作業の連続です。放射能汚染の問題や、冬場のノロウイルス対策と難しい問題がたくさんありますが、それでも「安全でおいしい給食」作りをモットーに、給食室一同チームワーク良くがんばっています。ご家庭でも給食を食卓の話題の一つにのせていただければうれしいです。

